

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371500010		
法人名	有限会社さかがわ		
事業所名	グループホーム遊鳥		
所在地	熊本県天草市栖本町湯船原759		
自己評価作成日	平成27年2月27日	評価結果市町村受理日	平成27年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市中央区草場町1-13-205		
訪問調査日	平成27年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな天草らしい海や山、田畑が広がる環境のなかにホームは建っており、リビングの窓から季節の移り変わりを感じられます。室内には季節や行事に合わせて利用者様と制作した飾り物や写真等を掲示したり、屋外では畑や花壇に時期の野菜や花を植え水やりや草引き、収穫を一緒に行って季節を五感で感じて頂いています。  
また、理念である”今日もおだやかに、にこやかに”にもあるように利用者様及びスタッフが1日1日穏やかな笑顔で過ごせるような環境作りを心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の安定した定着、介護福祉士資格の取得等、人材育成にも取り組まれています。開設から9年、利用者の安心して落ち着いた日常が、利用者の穏やかな表情で見ることが出来ます。今の穏やかで安定した日々を、事業所として基本レベル、今後は利用者一人ひとりの生きがいや楽しみ等々を、職員がより深く共有し自立支援していられることでしょうか。今後、今以上のグループホームをどのように追い求めて作っていかれるのか、より一層の努力が求められるでしょう。グループホーム遊鳥の今後を期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念及び26年度目標は職員全員で考え、玄関やホールに掲示し、毎朝の朝礼で唱和し意思統一を図っています。	平成18年の事業所開設時の理念を職員全員で再検討され、26年度の事業所目標が決定され、毎日のミーティングで唱和することで職員全員の意思統一に努めています。	代表者や管理者が決めてきた理念を「みんなで考えよう」と見直されていましたが、理念や目標が職員の方々がどのように受け止め、日々の支援の中で活かされているかを見つめ直すことも大切です。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治区に加入しており常会等で地元行事の情報を頂き、鬼火焼きや地元の祭りなどに参加して地域との交流を図るようにしています。	管理者の方が地域に在住されていることもあり、学校のPTA役員や消防団活動等に積極的に取り組まれています。近所の方からの野菜や花の頂き物など、日常的な繋がりもあっているようです。	近所の方から頂いた野菜等で作った料理をお返しすることも、一つの地域との繋がりになるかと思われます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者はキャラバンメイトとして認知症サポーター養成講座を通し、認知症の知識や理解を広めています。また、栖本こころプロジェクトに加入しており、栖本町の認知症介護についての相談役を担っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政区長や民生委員、駐在所なども参加して頂き日頃のホームでの活動状況や時にはマニュアル等を提示し意見などを頂いています。	2か月に1回開催され、活動報告等が行われていますが、活発な意見交換はできていないようです。そのことは管理者の方も自覚され、どうすれば意見の得るような会議になるか模索されています。	管理者の方が司会、報告と進められているようですが、スタッフ全員で取り組まれていくことも一つの方法です。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からは集団指導やメールにより情報を頂いており介護保険など分からないことは市の担当者に相談をしています。	疑問や不明な点等、直接、市の担当者に問い合わせ連携されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で身体拘束による悪影響を理解し、具体的に身体拘束禁止11項目を挙げ、身体拘束を行わないケアを実践しています。	身体拘束の研修を行い、全員で認識を深めるようにされています。身体拘束の報告事例はありません。また、身体拘束禁止11項目のみならず、精神的虐待に繋がるようなことも見逃さないよう留意され、職員の言葉使い等が気になる時は管理者により注意されているようです。	職員一人ひとりが意識的に自分たちの行動を振り返ることも大切です。「これって何だろうね?」と問いかけることも大切です。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修にて高齢者虐待の定義や事業所の責務・義務を確認して虐待は絶対にあってはならないものであることを再確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ権利擁護の研修は行っていないが、重要性は理解しており、今後、外部研修を中心に知識を深めていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時及び改定時には契約書や重要事項説明書の説明を行い、不安や疑問点がないか確認してから署名捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に内部及び外部相談窓口を記載しており契約時に説明をしている。また、玄関に意見箱を設置しているが実際に活用された方はいないためアンケート等の活用を検討し直接事業所に言い難いことでも把握できる機会を設けたいと思っています。	毎月1回、個々の写真中心の利用者便りを発行されています。写真を見て「元気そうでよかった」等の言葉や面会時の日常的な会話はあっているようですが運営意見はないようです。	具体的な意見を頂けるような工夫も必要です。一つの例としてボランティアの方々との意見交換会も利用者の代弁をする意味でもいいですし、面会時に家族への食事提供も嗜好調査になるのではと考えます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの中から改善係を決めており、業務内容改善等の意見を集約し、ミーティングの際に議題に挙げ代表者、管理者も一緒に検討を行っています。	月1回代表者、管理者、職員によるミーティングの中で意見を聞く機会を持たれています。有給休暇取得等についても検討されているようです。	代表者が参加せず、ざっくばらんな意見交換も行ってはいかかでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎月1回あるミーティングに毎回参加しており、職場環境の改善等の意見も一緒に検討を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度、内部研修は年間計画に沿って概ね行っているが、外部研修は研修項目に応じて参加を促していますが参加までに至っていません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度、熊本県地域密着型サービス連絡会天草ブロック会の世話役をさせて頂いており、研修会や交流会等の立案から実施まで行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者様が現在過ごされている生活の場へ出向き、心身の状態を確認したり、可能であればホームの見学に来て頂き、不安や困りごとの軽減に繋がっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	基本的に入居される前にご家族にはホームの見学に来て頂き、不安なことや要望を聞き取る場としています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のご家族及びご本人との面談の際に、心身の状態を把握して必要な支援を検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を中心に一緒に作業を行って頂き、役割を持って生活されています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはご家族にしかできない役割があることを伝え、極力面会に来て頂けるように基本的に利用料支払いをホームに持参して頂き、面会の機会を最低月1回はできるように配慮しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族には毎月ホームでの生活状況が分かるように、遊鳥便りを個別に作成して送付しており、遠方のご家族には特に喜ばれています。また、入居者様との会話の中で出てきた場所へドライブなど外出に繋がっています。	新しい場所で入居者自身の居場所である今の日々の暮らしを大切にすることが、一人ひとりの大きな生きる知恵であることを考えながら支援に努められています。	入居前の本人との継続のみならず、新たな場での支援を今後も継続していただけることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様間の相性を考慮した席の配置や、入浴嫌いな利用者様に対し仲の良い利用者様が一緒に入浴を誘ってもらったりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方が入院されている場所へ面会に行ったり、利用者様が亡くなってもご家族と年賀状のやり取りが継続しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中からお本人が望む暮らしを探るため、記録にはご本人が実際に発せられた言葉を残し、スタッフの情報共有を図っています。	入居者本人の表情や言葉を見極めながら対応するように努められ、経過記録に残すようにされています。細やかな情報は日々のスタッフ間の会話で共有されることも多いようです。	把握した事を暮らしに活かすためには共有することが大切です。日々のスタッフ間の会話の中で伝達された事を記録に残す方法を検討されることも期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人との信頼関係がしっかり出来てから聞ける情報もあり、必要に応じて面会の際に聞き取り、情報の把握を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の活動状況など記録に残し、スタッフ間で情報の共有を図り、把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族と話し合い要望等を聞き取り、それをもとに計画作成担当者や担当スタッフを中心に意見を出し合い、介護計画作成に活かしています。	アセスメント、ケアプラン案等は本人、家族、担当者等の意見を聞きながら、介護支援専門員が中心となり作成されています。	今後モニタリングも担当者と一緒にしていくことを検討されているようです。その取り組みに期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様個別に排泄・睡眠、バイタルチェックなどの記録を残し、生活リズムの把握に努めています。また、時系列で記録を残し日々の生活状況や会話の内容などを記録に残し、ご本人の思い等を探る材料としています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	気候が良いときは当日に弁当を作り屋外で食べたり、ドライブ先で食べたりしています。また、認知症対応型通所介護共用型も同空間で行っており、通所の方との交流も出来ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所から定期的にボランティアに来て頂き、会話や手芸などを一緒にして頂いています。また、美容師資格を持った方に来て頂き、希望者は散髪をして頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にホームの協力医療機関としている医院に主治医を変更して頂いていますが、ご家族の要望や病状によっては変更せず専門医への受診を継続しています。	かかりつけ医への受診の際は管理者による受診支援が行われています。また、協力医による往診があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療面などで気になることはホームの看護師や協力医療機関の看護師に相談し、適切な対応が図れるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護サマリーを作成し、口頭も踏まえて入院病棟看護師に申し送りを行っています。また、入院中もこまめに面会に向き、ご本人の状態を確認し、退院もスムーズに出来るようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームの看取り指針を説明し、同意を得ていますが協力医療機関によっては往診が出来ない病院もあり、実際に現段階では難しい。そのため、栖本町の福祉・医療・介護・ボランティア等が集まり他職種が顔の見える関係作りを行っている会に参加しGHでの看取りを望まれる方がいることを伝えています。	重度化で入院され退居されることはありますが、事業所での看取りの経験はないようです。今後、事業所での看取りについても検討されています。	終末期の事業所の方向性と職員の教育体制を整備され、看取りについて前向きに検討していかれることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、いつでも確認できる場所に保管しています。また、定期的ミーティングの中で再確認しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対しては定期的に避難通報消火訓練を行っています。風水害については現在マニュアルを作成中であり、訓練までは至っていませんが、地区の防災説明会などに参加して避難場所などの確認を行っています。	火災時等事務所にある緊急連絡ボタンを押すことで地域の協力者や職員へ電話連絡がいくようになっていきます。高台の避難場所も確認できています。	避難時にGH遊鳥の入居者であることを他の方々に知って頂くことも大切です。入居者の顔写真等は駐在所にファイル提供されているようですが、同じものを避難時に持ち出す等々、様々な方法を検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に名前で呼んでいます、名前の方が反応や表情が良かったりする方は名前で呼ぶこともあります。会話はかしこまった敬語よりも方言を使っていますが、時折なれなれしい言葉かけになっており、スタッフ全員で気をつけています。	ハード面で玄関から入ってすぐにリビングが一望できることもあり、椅子の配置等で配慮するように心がけておられます。トイレの誘導時等、入居者の心身状態により大声での誘導もあることも自覚され、誘導方法等配慮するよう検討されています。	職員一人ひとりがプライバシーを意識して対応しているかが大切です。今後も馴れ馴れしくなり過ぎない方言の使い方を考えて対応していけることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけを「〇〇しませんか？」とご本人に考えて頂くような声かけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間など大まかな時間は決まっていますが、眠気が強かったり食欲がなかったりときは、本人と相談して時間をずらしたり、好物で代用したりしています。体操やレクなども強制はせず、希望者のみの参加としています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際、お気に入りの帽子やスカーフなどを着用してもらい、楽しみの一つとしてもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の買い出し同行や調理の下準備など、できる方に依頼し、一緒に行くことで不安や失敗の軽減に努めています。	調理の下ごしらは一緒に行われることも多いようです。食事の前の口腔体操や歌があり、テーブルも花が添えられています。郷土料理や地域でとれた旬の食材をメニューに取り入れられていました。	食事の盛り付けも職員により得意、不得意があると思います。盛り付けが素敵なのも食事を楽しむひとつの方法です。写真に残し盛り付け方法を得意な職員から学ぶこともいいですね。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食必ず汁物を一品入れたり、食事や間食の際に水分の摂取を促すようにしています。食事が少ないときは時間を空けて再度勧めたり、好物で代用して食事量を確保しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年1回訪問歯科の定期歯科健診を行っており、口腔内の異常が見つかったり違和感、痛みがあるときはすぐに訪問歯科に連絡をして治療に繋がっています。口腔ケアは毎食後、声かけまたは介助により行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンのチェックを行い、失禁しやすい時間帯や排泄間隔を把握して失禁を予防しています。オムツ使用の方もオムツ内が汚染している時間が極力短くなるように排泄間隔に注意しています。	排泄パターンをチェックされ、リハビリパンツ、オムツ等使い分けされています。排泄量や汚染、排泄後の冷感防止等で日中オムツを使用されている方もおられます。	排泄パターンの随時見直しが弱いようです。排泄サインを見逃さず、今後も積極的に排泄の自立支援に努めていかれることを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食の献立に汁物を一品必ず付けたり、間食時や食事の際の水分補給を促したりして、水分を極力摂って頂けるように配慮しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には入浴時間を決めています。入浴希望や失禁等により汚染がある場合は、いつでも入浴できるようにしています。また、菖蒲湯やゆず湯など、行事に合わせた入浴も楽しんでもらっています。	基本的に午後を入浴時間と設定されて、2～4回/週の入浴支援が行われていますが、入浴拒否の方は散髪後の入浴が習慣となっております。	入浴拒否の方も何度も検討され働きかけ、現在の散髪後のみの入浴になっているようです。「それが当たり前になってしまっている」という管理者の反省もあります。入浴を好きになって頂く努力を今後も継続してください。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は表情や前夜の睡眠状況を考慮して昼寝等を促しています。臥床中は寝具やエアコンの調整、加湿器の使用などにより安眠を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から配布されている薬の説明書を個別のファイルに綴じ、スタッフがいつでも確認できるようにしています。また、薬の量や種類の変更がある場合は受診記録に記載し、スタッフ各自で確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般をスタッフと一緒にしてもらったり、生活歴で畑仕事をされていた方には野菜の苗付けや草引き、収穫等を一緒に行ってもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の食材の買い出し同行や地元の神社や隣町の恵比寿様など話題が上がれば、極力その場へドライブや散歩を実施している。	「出たい(外出したい)」という方は積極的に日常的な外出支援がなされていますが、「出たくない」と言われる方は「本人の意思を尊重しています」との事で、外出支援が少ないようです。	本人の意思尊重が削られたものなのか、職員の無意識的な誘導なのか、何をもって尊重となるのか、今一度検討されていかれることを期待します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は手元に現金を持参している方はいませんが、食材等の支払いの際にスタッフが見守りの中支払いをして頂くことがあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月発行している遊鳥便りに、担当スタッフからのコメントと一緒にご本人からの直筆のコメントを一筆入れて頂くことがあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食卓等には花を飾ったり、行事や季節の作品を掲示し季節感や居心地の良い空間を演出するように心がけています。	「信頼できるスタッフがいる事が居心地の良い空間づくりです」と管理者の方の言葉があります。掲示物や清掃のみならずコミュニケーション能力や人材育成も空間づくりに必要と努められています。	今後も「いつも、どうしたら気持ちよく過ごせるか」を検討しながら支援継続されることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的に好きな場所で過ごしてもらっており、自然と決まった場所で会話をしたり、一人くつろいだりして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具の持ち込みを勧めてはいますが、持ち込みまでは至っていません。衣類や寝具などは使い慣れたものを持ち込み使用して頂いています。	位牌の持ち込み等もあり、入居者それぞれの過ごしやすい居室となるよう努められていますが、もっと工夫したいと検討されています。	職員が入居者一人ひとりの担当となり、使い勝手のよい、その人らしい居室空間づくりを支援されることも方法のひとつです。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じ、手すりの設置や福祉用具の活用をしたり、トイレや浴室等の表示、居室ドアに入居者様の名字を掲示することで、安全に自立した生活ができるように工夫しています。		